



(ひかり かがやく子)

# 「蛍」の子

堀之内小学校だより  
R 7 年度 10 月号  
令和 7 年 9 月 30 日

【重点目標】 「自分からひかる 人のためにひかる みんなとひかる」

## 「自己肯定感が低い」

最近、いろいろな場面で聞かれる言葉です。言葉の定義はいろいろですが、外国と比べ、日本の子どもたちは特に低く、教育界でもよく問題視されます。しかし、学校で生活していると、その「自己肯定感が低い」ことも、決してマイナスばかりではないなと思うことがよくあります。その「低い」と言われる思いが、多くの子どもたちの中で、「次、がんばろう」とか「もっと努力しよう」とかのように「努力のエネルギー源」になっています。国際的にも様々なジャンルで日本の技術力の高さや日本人の勤勉さ、正確さなどが賞賛されますが、実はそれらも「自己肯定感の低さ」から生まれているのではとも思えます。

これまで出会った子どもたちを見たとき、「自己肯定感が低い」ことよりも、「自己無用感(?)が高い」ことや「自己無能感(?)が高い」ことの方が大変です。「僕って何の役にも立っていないな」とか「どうせ私は何をやってもダメだから」という自分への諦めの気持ちがそれです。これらはなかなか「エネルギー」に変わりません。

## 堀小第 3 ステージ「人のために 動こう」

堀之内小学校では、9/16から第3ステージ「ひかり 3」に入りました。テーマは「人のために 動こう」です。堀小に関わるみんなで、お互いに意識して、子どもたち一人一人の「自己有用感」と「自己有能感」を育もうというステージです。各自が「人のために動くこと」を意識したり、周りがあえて「人のために動きたくなる場面」を創ったりしながら、「人のために動くと気持ちいいなあ」とか「ありがとうって言葉って、言われるとうれしいなあ」などの思いをたくさん感じさせたいと思っています。そうしたことを体感する中で「自分ってなかなか良いじゃん」とか「自分ってこうやって人のために動けるのか」とかという『自分に対するプラスの思い』が少しでも多く蓄積されると良いと思っています。

各御家庭でも、またお祭りなどの地域の行事でも、子どもたちが「人のために動ける場面」や「人のために動きたくなる仕掛け」をたくさん用意していただき、「ありがとうね」や「助かったよ～」などの言葉を子どもたちにたくさん伝えてください。堀小の各御家庭で、さらには堀小学区で「ありがとう」という言葉がたくさん子どもたちに降り注がれる第3ステージになってほしいと願っています。御協力をよろしくお願いいたします。



(校長 後藤克巳)